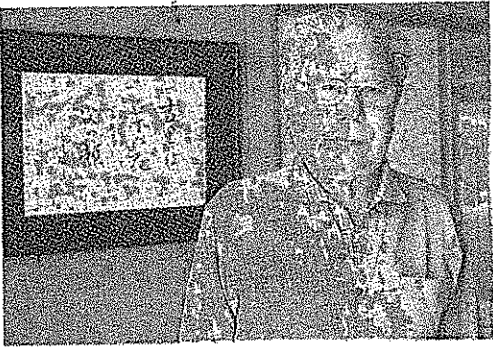


# 流行小説も絵もダメ

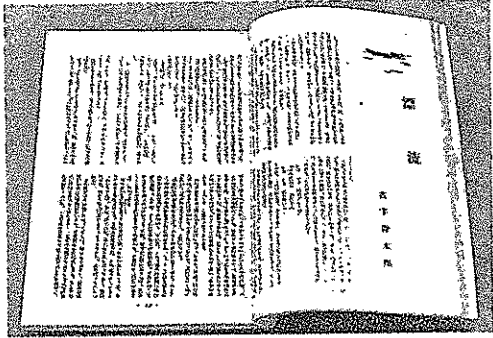
## 従軍記者の誘い

「物書きは、どちらかと  
いえば左翼思想を持った危  
険分子とみられていたよう  
です」。福島昭午さん(85)  
北海道北広島市はこう  
戦前・戦中のことを語りだ  
しました。

父豊さんは、作家の広津  
和郎に師事し、1939  
年、最初の作品が芥川賞候  
補になり、注目を集めまし  
た。



福島昭午さん



『人間像』92号「漂流」

## 第5部

### 第2次世界大戦 終結70年

### 庶民にとっての戦争

-2-

作家で友人の丹羽文雄が  
北海道を舞台にした歴史小  
説を書きたいというので、  
40年、2人で道内を回りま  
す。旅の終わりに一人の男  
が近寄ってきました。  
「作家の丹羽さんです  
ね。辺りをはばかり低い  
声を絞りだす男。「もしど  
こかで写真でも撮られたり  
すると、即刻ご足労をお願  
いするつもりでした」  
男は2人を尾行していた  
特高警察でした。

「丹羽の作品は、不倫し  
て逃げた母をモデルに男女  
の愛欲を描いたものでし  
た。共産党だけでなく国民  
を弾圧する治安維持法が猛  
威をふるった時代は、流行  
小説すら許さなかった」と  
昭午さん。  
ある詩人が訪ねてきたこ

とがあります。文学者や言  
論人を侵略戦争に協力させ  
る「文学報国会」に入って、  
従軍記者にならないかとの  
話でした。家は金に困って  
いる時でしたが、話の途中  
で豊さんは怒りだし、「文  
学を軍に売るのはやめろ」  
と一喝しました。

教員を務めながら、昭午  
さんも物書きの道へ進みま  
す。1949年4月、北海  
道で最初の同人誌、『人間  
像』を創刊します。74年2  
月には、豊さんの追悼号を  
出し、遺稿「漂流」を掲載  
しました。  
「父は、無謀な戦争によ  
って、筆を中断され、戦争  
で運命が狂ったことは間違  
いありません。戦争法案を  
押し通そうとする安倍政権  
は、45年8月15日以前の日

治安維持法 25年4月、主権在民や反戦平和の  
主張を弾圧するため、普通選挙法と引き  
かえに導入され、廃止される45年までの  
20年間に逮捕者は数十万人を数えました。同法の  
弾圧が原因で命を落とした人は判明しているだけ  
でも1682人にのぼります。

本に戻そうとしています。  
私は、父より20年以上長生  
きしています。余生を憲法  
改悪反対に傾注したい」  
零下30度の独房  
旭川市の菱谷良一さん  
(94)は、日常生活を忠実  
に表現した絵を描いただけ  
で治安維持法違反にされま  
した。恩師の旭川師範学校

「警部は『おまえは共産  
主義を信奉しただろう』と  
ピンタとどう喝で、うその  
自白や証拠となる手紙を書  
かせました。何も知らない  
少年が『共産主義者』に仕  
立てられました」  
菱谷さんはいま、公民館  
の絵画教室で市民に絵を教  
えています。「私は、あの  
暗い時代の生き証人です。  
体の続く限り、戦争法案や  
秘密保護法の危険性をしや  
べっていきます」



菱谷良一さん

(名)越正治  
(こ)つこ